

県陵

KENRYO

Matsumoto Agatagaoka Senior High School

132



- 02 本年度役員あいさつ
- 04 PTA 総会～風通しの良い PTA を目指して～
- 05 1年「進路・お金・修学旅行」／2年「実りある海外研修旅行に向けて」／3年「進路講演会」
- 06 平成 29 年度 PTA 年間スケジュール
- 07 専門委員会より
- 08 学年づくり
- 10 英語科研修旅行～オーストラリア・アデレード～
- 12 活躍する県陵生
- 13 新学科「自然探求科」・「国際探求科」～信州・日本・世界の第一線で活躍する人材の育成を目指して～
- 14 ようこそ県陵へ！～4月28・29日国立信州高遠青少年自然の家～
- 16 県陵祭 Snap・県陵祭表彰・編集雑記



家庭と学校が相**連**携して…

PTA 会長 井口 寿彦



本年度のPTA会長を務めさせていただくことになりました井口です。微力ではございますが、役員の方々と力を合わせて精一杯頑張りたいと思います。

PTAの目的は、保護者と学校教職員が協力体制をつくり、学校との意識共有や情報交換、教育環境の改善など、子どもの健全な成長を図るものと考えています。保護者だけ、また、学校だけでは解決できない広範囲に関わってくる課題等に立ち向かうためには、多くの関係者、さらには地域までもが一体となって、取り組んでいく組織が必要といえます。

高校におけるPTA組織も同様といえますが、子どもの成長につれ、その立場は変わってくるものと考えます。高校生ともなると、自分の考えで行動するようになり、もう「自立」しているのだからと、周囲から細かいことを口出ししてもらいたくなく、また、保護者としても甘やかし過ぎないように放っておいたほうが、子どもの「自立」につながるのではと、放任主義になりがちです。そしてPTAの活動や取組みについても、何が求められているのかと疑問を抱くこともあろうかと思えます。

しかしながら、昨今、高校生においても、スマートフォンなどの情報端末から、トラブルや犯罪に巻き込まれるケースもあり、社会問題となっています。また、各家庭においても、子どもの「自立」にむけて、親子の信頼関係、サポートは欠かせないものの、適度な距離が生まれてくる

ため、高校生の保護者として、どう向き合ったらよいのか悩むところもあります。さらに保護者や先生方だけでは解消できない課題もあり、PTAといった組織で情報を共有し、一緒に考えていくことが必要と考えます。

今年度のPTA事業も、年2回の広報発行のほか、県陵出身の現役大学生との懇談を含んだ大学視察、強歩大会の安全見守り、果物等の準備・配布といったサポート、地区PTAなどが計画されております。役員の方々には大変お世話になりますし、会員の皆様には積極的にご参加いただきたいと思います。結果的に、こうした事業を通じて学校の様子を知り、また、保護者同士や先生方との交流を深めていただけたら幸いです。これからもご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

あなたのColorは 何色ですか？

生徒会長 藤田 達也



今年の生徒会スローガンは「colors」。縣陵生全員が生徒会というキャンパスをそれぞれの得意なこと、興味のあること、自分にできること…たくさん色で染めていきたい。そんな思いを込めてこのスローガンを掲げました。

生徒会活動では、各委員会それぞれが昨年度の反省を踏まえ、新しい活動を増やし、様々な場面で活躍している姿が見えます。縣陵は生徒会活動も盛んな学校という嬉しい評価をいただけるのも、日々の活動のたまものだと思っています。

今年度は生徒会最大行事である縣陵祭が70周年という記念すべき年でもあります。生徒会本部では70周年縣陵祭を今までをすべて凌駕するような素晴らしいものにできるよう何度も何度も話し合いを重ね、チームワークを高めてきました。

また、歴代の先輩方が作り上げてきてくださった大きな伝統を継続しつつ、今年は様々な場面で新たな形を模索し変革を進めてきました。生徒会役員一同そして全校生徒で作り上げる今の自分たちにしかできない生徒会。あなたはどんな色に染めますか？

PTA活動に 参加してみて

PTA副会長 竹内 公人



PTA会員の皆様のご協力のおかげで、1年間の活動を終え、新年度がスタートしました。

昨年度を振り返ると「強歩大会の補助」では生徒の真摯な取組に感銘を受け「地区PTA」では同じ地区の会員の方々と同じ悩みを共有出来、中央大学を視察した「PTA研修旅行」では本校OBとの懇談もあり、生徒の高校時代の勉強法や、大学での現在の生活について生の声が聞け、とても参考になりました。

様々な活動に携わって感じた事は、参加してみないと、「良さも何も分からないのだな」という事です。私自身初めて参加してみて、視野が広がり大変勉強になりました。

元来、行事にあまり参加しないタチであった私が言うのもなんですが、会員の皆様もお忙しいとは思いますが、是非ご参加頂ければ、何か得るものが有るのではと思います。

本年度も微力ながら、本校生徒の縁の下での力持ちとなれるよう努力したいと思います。皆様方のご協力、宜しく願い申し上げます。

未来志向の高校として ～探究科の創設～

学校長 永原 経明



来年度より、英語科を改編し『自然探究科』『国際探究科』を創設することになりました。

英語科は平成六年に設置され、英語のコミュニケーション力の向上、異文化理解に力を入れ、実績を重ねてきました。普通科に加え英語科が存在することにより、両科が互いに良い刺激を与え合い学校を活性化してきました。

一方、今日社会は急速に変化をしています。グローバル化が進むとともに、様々な課題が社会に山積しております。そのような時代を力強く生きていくには、自ら課題を設定し解決する力、コミュニケーション力、異文化理解の力等がより一層求められます。

その中、本校は教育活動全般について工夫をしてきました。身近な地域に目

を向け、課題を設定し解決策を考える「信州学」、英語でのディベート、普通科の台湾修学旅行、電子黒板を活用しての授業、生徒会活動の活性化等々であります。

さて、来年度入学の一年生が大学受験をする時より、入試制度が変わります。センター試験が廃止され、新たな全国的試験が導入されます。そのような流れの中で、本校は英語科を、今まで以上に輝かせていく道筋について研究をしてきました。これまでの英語科のよさを継承しつつ、新たな要素を大きく取り入れていく、それが新学科のコンセプトです。

新学科の魅力をあげます。

- ①「探究」の授業で、「課題解決力」「プレゼンテーション力」等を培う。
- ②英語の授業や海外研修でコミュニ

ケーション力、異文化理解力を高める。

- ③少人数によるゼミ形式の授業で深い学びをし、専門性を高める。
- ④大学や研究機関との連携から、高度な研究レベルに関わり、知的好奇心を高める。
- ⑤1年次は共通の学習をし、将来自分が進みたい進路をじっくり考え、2年次より理系である『自然探究科』、文系である『国際探究科』を選択する。
- ⑥難関大学など、進路の実現を確実にしていく。

英語科の発展の延長上にある新学科です。普通科、英語科、探求科ともに持ち味を発揮しながら、県陵の学びを向上させていきたいと思います。引き続きご理解とご支援をお願いいたします。

時代とともに変化 するものしないもの

PTA副会長 窪田 和英



この度、PTA副会長を拝命致しました窪田と申します。よろしくお願い致します。自分の母校が松本県ヶ丘高校であると再認識したのは「母校愛のリレー」準備委員会の同窓会に出席した時でしたが、それから約3年後にPTA副会長を務める事になるとは全く想像しておりませんでした。

先日、PTA総会の際に、母校の様子をつぶさに拝見し、私が学んだ30数年前と状況が大きく変化したのだと実感致しました。

現在、県陵生の男女比率の変化に伴い学校施設の改善も指摘されておりますので、PTAとして出来る事があれば積極的に活動して参りたいと考えております。時代とともに母校を取り巻く環境は変化しておりますが、県陵生が学校生活を通じて学ぶ事、悩む事等は昔と変わっていないのではないのでしょうか？

彼らが県陵で過ごす時間をより快適なものに出来るようPTA活動を通じてサポートして参りますので保護者の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

主体的・対話的で 深い学び

教頭 篠島 良一



日頃よりPTA活動へのご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

平成32年度から「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の実施が予定されています。また、一方的に知識を得るだけでなく、「主体的・対話的で深い学び」を重視し、生涯にわたって能動的に学び続けることを目指すとする学習指導要領が平成34年度から実施されます。グローバル化など社会の変化とともに教育も大きく変わろうとしています。

本校でもこれらの変革に対応すべく授業、学校行事、その他、見直しや改善を行っております。探究的学びの「信州学」の導入やPTAのご協力をいただいた1年生普通教室への電子黒板の設置等もその一環です。また、今年度8月には県の指定を受け、すべての普通教室に電子黒板の設置、タブレット40台の導入などが予定されています。PC・タブレットを用いた授業やグループ学習など授業スタイルも変化しつつあるところです。

生徒の学習意欲を喚起し、これからの予測が難しい社会の中でも、広い視野を持ち、志高く未来を創り出していく資質・能力を育むことができるよう努めてまいります。今後とも変わらぬご協力をお願いいたします。

～風通しの良いPTAを目指して～

今年は5月半ばから快晴が続き、真夏が連続して観察されるようになりました。去る5月20日に平成29年度PTA総会が開催されました。午後1時からの予定でしたので昼下がりには駅から歩いて向かいました。30℃にはならなかったと思いますがなかなかの暑さで、あがたの森に着くころには汗だくでした。木陰の涼しさに癒され、水辺の子もたちの笑顔を見ながら、我が子の幼少期を思い出しました。今では「うん」「やだ」「ごはんは？」以外しゃべりませんが、昔はかわいかったなあなどと考えながら大体育館に向かいました。

受付で渡されたのは、立派に印刷製本されたPTA総会資料です。小中高と様々な学校の総会に出てきましたが、こんな立派な資料を見たのは初めてでした。はじめのうち空席が目立ちましたが、開始時には多くの会員で席が埋まり、熱心なご家庭が多いと感じました。

総会では、井口副会長の開会の辞ではじまり忠地会長挨拶がありました。続いて永原校長のご挨拶があり、入学間もない1年生の様子や、終了したばかりの中信総体の模様が伝えられました。そして、「風通しの良いPTAとの関係

を築きたい」とのお考えを聞き、社会の中で変わりつつある学校の在り方を思いました。引き続き平成28年度の会務報告がなされ、生徒の学ぶ環境づくりのために、学校、同窓会、PTAが協力して取り組まれていることを知りました。引き続き新役員の紹介が行われ、平成29年度の事業計画案、予算案について説明がありました。会員の皆様の大きな拍手によって承認され、新たな年度の活動がスタートしました。井口新会長からは「自分の考えを持ち自立した縣陵生であるので、親としては少し離れて遠くから見守るような距離感で接することが大切ではないか」とのお話があり、自らの子どもへの関わり方を反省しました。最後に、3年間にわたりがんばってこられた忠地会長に感謝状と記念品が贈られました。忠地前会長は顧問に就任いただく



とともに「これからはOBとして縣陵生を見守りたい」という暖かな言葉をいただきました。

総会終了後、PTA懇親会及び歓送迎会が松本東急REIホテルで行われました。



1 学年 PTA



2 学年 DVDにて埼玉県の高校が実施した模様を見て



1 学年 PTA

進路・お金・修学旅行

1 学年PTAでは、進路・お金・修学旅行についてそれぞれ担当の先生よりお話がありました。

進路については入学式後の学年PTAと今回の2度にわたりお話を聞きました。現段階の1年生に求められることは、

中学から高校への切り替え

学習習慣の確立

高校の履修範囲はとても広いので予習、復習を毎日行い授業に集中し確実に理解することが重要。

「予習→授業→復習」の学習サイクルを確立し家庭学習として習慣化する。家庭での学習時間の確保。

以上のような課題をあげとてもわかりやすく参考になるお話でした。

保護者にとって不安の多い進学費用ですが、進学には入学金や授業料だけでなく生活費も必要になること。奨学金を利用する場合は多くが貸与型で子供本人に返済義務があること。早めに対応を考える等、親にとっては切実なお金の話をお聞きました。

最後に海外修学旅行を実施する趣旨についてお話があり、教育のグローバル化が急速に進む現在、世界に目を向けること、世界的視野でものを考えることが必要であり次のような目的です。

・訪問国の文化施設、歴史的施設を訪問し、その国の文化・歴史への理解を深め、異文化理解の契機とする。

・高校生同志の交流を通じて語学力に磨きをかけるとともに、異文化の中で自らを表現するコミュニケーション能力を身につける。

4月に普通科の家庭を対象にアンケートを行い、実施について9割以上の家庭が「良い機会になる」「良い機会だが少し不安」という集計結果でした。不安や心配事があることも当然であり、学年、学校、旅行業者等に相談し情報を集め対応をしていくとのことです。

2 学年 PTA

実りある海外修学旅行(普通科)に向けて

前半は学年全体に関わる事項、後半は普通科と英語科とに分かれ、普通科は旅行会社による海外修学旅行についての説明会が実施されました。

■ 学年全体

- ① 進路関係行事(総会資料30ページ)の中で、夏休み中に志望大学の「大学インターンシップ」を必ず行うこと。なお、事前申し込みが必要となる場合もあるので、各自で確認して対応する。
- ② 進路に関して、山内太地氏より「ワンランク高い目標を持つ」「15分勉強法」等の実践的な講演を受けた。インターンシップの大学選びも高い目標で臨んで欲しい。
- ③ 自転車事故、特に車両との接触事故に注意して欲しい。松本駅前にある駐輪場付近での交通指導を松商学園と一緒に行う計画である。

■ 海外修学旅行説明会

- ① 台湾までは約3時間半で、親日的な国であり治安も良いことから、多くの学校が訪れている。
DVDにて埼玉県の高校が実施した模様を見て(写真)。保護者の理解も進んだと思われます。
- ② パスポート(有効期限5年)は9月15日までに準備する。
申請から取得まで2週間程度要すること、また、受け取りは必ず本人であることなど説明を受ける。
- ③ 台北市内の高校生と交流を計画(11月24日)しているが、学校では彼らと英語でコミュニケーションを図ることをめざして今後取り組んでいく。

3 学年 PTA

進路講演会

大学受験と保護者の関わり方生徒の進路実現に向けてと題して信学会駿台提携信州予備学校 進路アドバイザー 外山郁薫先生による講演会が行われました。

●昨年度の入試分析と今年度の傾向予測

志願者数は2年ぶりに増加し現役志願率は43.9%にアップし過去最高。女子の志願者数は初めて25万人を突破しました。国公立大学の概況は「文高理低」の継続 難関国立大学の後期廃止拡大 今後の志願状況を見るためのポイントなどがありました。

●18年入試への変更、注意点等

推薦・AO入試の導入・廃止

新設・改組、日程・募集人員の変更など注意点が多々あります。私立大学の概況は志願者数は11年連続増加、国公立大学と同様に「文高理低」文系の人気が高いと言えます。

●親として子ども(受験生)との向き合い方

子どもの大学進学と保護者の役割、子どものための大学選びとは

有名大学に入りさえすれば何とかなる?

大学で資格を取れば安心?

就職率が高ければ大丈夫?

●変革の時代

2020年度入試より新入試制度が開始するようです。

保護者の時代とは大学進学がかなり変わったようです。

大学受験は子どもが何を話したいのかを聞き保護者の考えも伝えるように心がけ一緒に乗り切りたいと思いました。そしてもう1つ子どもは学費の事も考えているようです。

平成 29 年度 PTA 年間スケジュール



4月	6日 入学式
5月	11日 第1回 理事会 評議員会 20日 PTA総会 進路講演会 26日 中信地区高等学校PTA連合会総会
6月	1日 芸術鑑賞 8日 長野県高等学校PTA連合会総会（長野市） 24・25日 縣陵祭（一般公開）
7月	7・8日 北信越高等学校PTA連合会研究大会（富山市） 21日 PTA会報発行 132号 地区交流会～11月上旬
8月	24・25日 全国高等学校PTA連合会研究大会（静岡県） 8日 合唱コンクール
9月	9日 3学年PTA 14日 中信高等学校PTA指導者研修会
10月	4日 人権学習 13日 強歩大会 中旬『教育条件整備』に関する署名運動
11月	18日 PTA研修旅行
2月	15日 第2回 理事会 評議員会 下旬 PTA会報 133号
3月	3日 卒業式



縣陵生の頑張りを一緒に見ませんか？

総務委員長 綿貫 幹雄

縣陵の三大精神「質実剛健」、「大道闊歩」、「弱音を吐くな」のもと、縣陵の伝統行事である「第62回強歩大会」が10月13日（金）に行われます。男子は32.9km、女子は28kmのアップダウンの激しい、大変厳しいコースです。

この強歩大会を成功させるには主役の生徒をはじめ先生、PTA役員、多くの保護者の御協力が必要となりますので、よろしくお願いします。

縣陵生の成長と逞しさが感じられる良い機会となりますので、皆さん一緒に声援を送りましょう！



この機会にぜひ！

研修交流委員長 平出 栄利子

研修交流委員会では、皆様が交流し合える場の提供として、地区交流会と研修旅行のお手伝いをさせて頂いています。学校側からも、情報の提供や子供達の様子をお聞きする機会がありますが、地区交流会や研修旅行での交流を通して、私達自身が直接体験することにより、より子供たちの気持ちに寄り添えるものが見えてくるかもしれません。

さて、今年の研修旅行では11月18日（土）に金沢大学見学が計画されています。国公立大は土日などの休日に門戸を開放して頂くのが非常に難しく、例年は私立大の見学でした。今回は、先生方や本会PTA役員の皆様の御尽力により国公立大の見学が実現しました。金沢大に通う本校卒業の学生さんとの交流も計画されています。気になるあれこれを聞くこともできるチャンスです。この機会を大いに利用してみてください。

今年一年、よろしくお願いいたします。



「縣陵」のページを開くと…。

広報委員長 河野 富美

「Parents Teacher Association 会報」だけあって、この「縣陵」には、PTA会長はじめ私たち保護者の活動の様子、県ヶ丘高校を愛する先生方の熱い思いがあちらこちらにちりばめてあります。が！紙面を一番多く占めているのはやっぱり、私たちみんなの自慢、縣陵生のキラキラ輝く笑顔！笑顔！笑顔です！これまでのどの会報を読んでも、子ども達の頑張る姿に「わあ、ステキ☆」、しっかりと自分の考えを持った文章に「おっ、立派!」、かけがえのない高校生活を思いっきり楽しんでいることが伝わって、思わず頬が緩みます。自慢に思う鼻も、高々と伸びる一方です。

今年度も、会報のページを開く皆様にたくさんの笑顔届けられるよう、広報委員一丸となって取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



同窓会より奨学金のお知らせ

大学進学決定者を対象とした、無利子の育英（貸与）制度があります。年度毎の定員は3名で、貸与額は年間50万円（4年間で200万円）、返済期間は貸与期間の2倍以内（例：4年生大学は8年間）となっています。募集は、来年2月以降で採用決定は3月下旬になります。詳しくは、同窓会事務局（32-0666）までお問い合わせください。

高校野球観戦記

3学年主任 巢山 尚人



過日、春季北信越長野県大会が行われ、本校野球部も出場。一回戦で長野商業を破り、夏の選手権のシードを獲得。選手権に期待。

さて、四日間の大会運営を通じて感じたことを少し。

いつもながら思うのは基本がしっかりできていないチームは勝ちあがるのが

難しいということ。攻撃においてバントを確実に決められなかったり、守備において投手の制球が悪かったり、守備が乱れたりすると厳しい結果が待っている。これは野球に限らず、勉強においても言

えること。語彙力を含め基本を地道に鍛えた者には必ずや結果が伴ってくるはず。

野球というのは点取りゲーム。相手より一点でも多く取れば勝ちとなる。そのため、攻撃力を高めようと打撃に力を入れるチームもあるが、バントを除けば打撃は水物。それに対し、守備や走力は計算できる戦力となる。攻撃で挙げる得点に対し、失策などで点を与えることがどれほど多いことか。これはどこか受験にも通じる事実。ゆめゆめ正答を得ながらもミスでそれを生かせないなどということがないように。

今大会準決勝での一コマ。最終回一点差、一死一、二塁で打球はピッチャーへ。併殺を狙い二塁へ送球すると思いきや一塁封殺のみ。その後逆転打を打たれ敗退。試合後の談、「帽子がズレて視界が奪われ二塁に送球できなかった」

何事においてもイレギュラーなことは起こる。そうした場面においても冷静な対応ができるよう万全の準備を常に心がけたいものだ。

3年生に想う

3学年会長 神戸 順



月日の経つのは本当に早いもので、いよいよ高校生活も3年目を迎えました。順調ならば、(でないと困りますが…)泣いても笑ってもというか、否が応でもというべきか「卒業」が待ち構えています。この一年は特に社会へ出る準備、新たな一歩を踏み出す用意のた

め、かけがえのない充実した毎日を送ってほしいと思っています。

まだ自分がどうしたいか全くわからない。迷っているし、おぼろげかも知れない。けれど、自分の夢、それぞれが進む道を目指し、強い気持ちで、自分を信じ、挑んでほしいと願っています。

最近つくづく思いますが、私の頃の昔話をしても、子供には何にも伝わらないなんてことばかりです。子供達は自分達なりに考え、(一丁前にも)最善を尽くしているのだと思うようにしています。自分の足で歩いていけるように、親はいつの時代も唯々、応援、バックアップするのみです。今年も一年よろしくお願いします。頑張りましょう。

『海外へ』

2学年主任 桑澤 悟



2年生となり、普通科ではクラス替えで新しいクラスでの生活が始まった。早速友人関係を築いたり、一方でまだ馴染めず、様子をうかがっていたりとそれぞれである。人間は新しい環境に置かれると、何とかせねばと身の処し方を考える。こんな時にこそ成長が見られるものだ。今年度は2学年全体が海外へ出

かける。普通科では今年11月に台湾への修学旅行、英語科では来年3月にオーストラリアへの語学海外研修が予定されている。旅行ではクラス単位の行動もあるので、クラスメイトとの絆が一層深められるだろう。

普通科に関して言えば、海外への修学旅行は縣陵史上初の試みであって、立ち上げに際しては色々苦勞した。そんな中、保護者の皆さんや本校職員の理解と協力に後押しされながら何とかこま

で準備を進めてこられた。この3月には担任3人が現地台湾の下見を行い、それを踏まえての内容や訪問地の検討に入っている。台湾を訪れ、まず感じたのは治安の良さと人々の活気、それに日本への好感度だ。学校交流を予定している1つの相手校の校長先生は、「生徒どうしが英語を使って親睦を深めることに期待をしている」という。きっと生徒たちは、相手校の生徒の英語力と元気のよさに圧倒されることだろう。しかし、怯むことはない。互いに同世代どうしだから、共通の話題が見つかり必ず打ち解けるはずである。

ところで、食事や生活で不安を抱いている生徒や保護者の方もいると思う。そんな時は是非、クラス担任に相談して頂きたい。旅行前に出された課題を担任団で共有し、旅行業者とも相談しながら1つ1つ問題を解決していきたい。

今年度の修学旅行、語学研修旅行実施にあたり、英語力のブラッシュアップはもちろんのこと、限られた時間ではあるが、事前学習として現地の名所や文化、自然などを学習して本番に臨みたい。これら旅行が高校時代のよい思い出となるとともに、今後、国際化が進む社会で生きる生徒にとって、異文化理解やコミュニケーション能力向上の一助となればと期待している。

今できること

2学年会長 藤原 真希



この春、数年ぶりに五月人形を飾りました。物置から出しながら、幼かった我が子が勇ましい人形の姿をみて怖がっていたことや、菖蒲湯に喜んでいたりなど色々と思いだし、月日の経つのは早いものだとつくづく感じました。それと同時にもしかすると、あと数年で我が子が家から出ての生活を始めるようになるか

もと思ったら、急に時間経過のさみしさの感情が込み上げてきました。授業で難しい勉強を教えていただき、部活動では技術はもとより忍耐力の習得や人間関係を学ばせていただくという忙しい日々を送る我が子に対して、学のない私が何をしてあげられるだろうと考えたら急に焦っています。今すぐできることと言ったら、生活指導の先生からも度々お話がある基本的な生活習慣の重視を家庭内でも行っていくこと、本人のいずれやってくるであろう自立生活に向けて躰を見直すことだと思います。子供の成長と共に「子供が望むこと」と「親がしなければいけないと思うこと」の差が大きくなり、揉めてしまうこともある我が家ですが、皆さんのご家庭はいかがですか。お互いが今できることを懸命に、一緒に時間を大切に過ごしていただきたいと思います。

友と出会う

1学年主任 細田 明彦



4月の最初に、新入生に向けて、だいたい以下のような話をしました。

縣陵のいい所はいっぱいあるが、本当に素晴らしいのは、ともに学ぶ『友人』たちの存在である。

縣陵生の殆どの諸君は大学へ進学する。が、ただ大学へ「進学する」のが目標なら、何も「ここ」で学ぶ必要はない。家で自分で勉強して高卒認定試験を受けても大学へは行くことができる。

では、「ここ」で学ぶのはなぜか？それは「友人と共に」、つまり、「我等」で学ぶことに大きな意味があるからだ。教科の学習、部活動、行事の準備等々、すべてを個性豊かな友人と共に行う。その中で、笑い、張り合い、得意になり、背伸びし、一方で、悔し涙を流し、羨ましく思い、卑下したくなったり悲しんだり…。そういうさまざまな思いを分かち合い、励まし合う中で、一人では決して得ることのできない、かけがえのない時間を君は手に入れることになる。縣陵には、その時間を分かち合える、分かち合う価値のある友人たちがいる。

誰にでも好い面と悪い面とがある。同じように、どの学校にも好い面と悪い面とがある。どうか、周りの友だちの好い面を認めあい、高めあう関係を築き、「生涯の友」と呼べる存在を見つけしてほしい。そして、縣陵の好い面とたくさん関わるような学校生活を送ってほしい。

一方、自分は友だち作りは苦手だなと思っている人もいるに違いない。周囲の人がどんどん友だちを作っているように見えるのに、自分にはまだ…と焦ることもあるかも知れない。でも、本当に気の合う好い友だちなんて、そんな簡単には見つけれられないものだ。だから焦ることはない。授業の中でも、部活動・行事においても、自然に友だちはできていく。だから、無理をしたり焦ったりする必要はない。さらにまた、ひとりが好きだ、という人もいるだろう。周りのみんなはそういう君のことも尊重するはずだ。縣陵はそのとき、誰にとっても、居心地の良い空間になる。

ときには、意見や考え方の違いが対立する場面も出てくるが、そこをうまく（ネット上ではなく、面と向かって）調整していくことも大切な能力だ。引っ込み思案にならず、喧嘩もするが優れた点は素直に認め合える、そんな学年・学校になれば理想的である。

これからの縣陵を創っていくのは、すべて君自身である。あらゆることに積極的に関わる中で、勉強も含め、あらゆる面で力を発揮することのできる本当の「縣陵生」になってゆくのである。

入学して2ヶ月が過ぎました。さて、…。

素敵な出会いを！

1学年会長 伊藤 深雪



今年、私は三度目の縣陵入学式を迎えた。一度目はずっと昔、自分の。二度目は保護者として五年前、長男の。そして三度目は今年、次男の。

長男が在校していた頃のこと。PTA講演会で「ココロでわかると必ず人は伸びる」の著者、木下晴弘先生のお話

を聴く機会に恵まれた。たまたま時間が空いていたので参加した講演会だったのだが、涙を流しながら拝聴した。魂をゆすぶられ、今でも忘れることができない。

つい先日の学級PTAでは、担任の先生が一人一人の生徒に真摯に向き合ってくださっている様子がわかった。先生との出会いに感謝。そして、お子さんの様子を生き生きと話す素敵な保護者の方々との出会いにも感謝。

高校のPTAはもう参加しなくてもいいかなあとお考えの方！まあそう言わずに、参加してみませんか？素敵な出会いが待っているかもしれませんよ。

英語科研修旅行



研修旅行を終えて 3年I組 担任 金井賢一

オーストラリア滞在の最終日、3校に分かれた生徒たちをバスに乗せながら州の教育省に向かう途上でのこと。ホームステイ先の家族と別れを惜しむ生徒たち。お世話になったことに感謝を伝えたら「とんでもない。世話になったのは私の方だ」と言ったある老紳士。受け入れ校の先生、生徒、ホームステイ先の家族、アデレード大学の学生たち、州の教育省の担当者など多くの現地の人々とのかけがえのない交流が凝縮された瞬間でした。研修旅行は何事にも代えがたい経験を一人一人に与えてくれました。



ホストファミリー・大学訪問・市内観光

ホストファミリー

オーストラリア研修旅行での一番の思い出は、ホストファミリーである Miyuki と Usagi (ペットの兎) に出会えたことです。私はこの研修旅行で少しでも英語を話す力をつけたいと思い、オーストラリアへ行きました。やはり伝えられないことばかりでしたが、Miyuki はそんな私を妹のように接してくれて、理解してくれました。言葉で通じることは難しいですが、コミュニケーションをとることは結構簡単なことだと実感し、そして、伝えられない悔しさにもっと勉強をしたい気持ちが湧き上がりました。Miyuki に出会えたことは一生の思い出で今でも連絡を取り合っていますが、これから先も続けたいと思っています。(根橋妙恵)



「カート」

私たちはプレゼンテーションをオーストラリアの大学生の前でしました。その時同じ机になったのがこの人でした。彼の名前は「カート」です。彼は大学で日本語を勉強していて彼の好きな日本語は『うん』だそうです。私と友達の2人はカートと仲良くなるため日本語と英語でたくさん話しました。うまく通じなかったけどとても楽しかったです。次の日はマーケットを案内してもらいました。欲しいものまで買えて満足です。(松崎知沙)



《34度》

ホストファミリーデーに連れて行ってもらったワイルドパークの写真です。この日はとても暑くてコアラを抱くこともできずカンガルーや他の動物もバテ気味で元気ありませんでした。日本では体験できない様々なことを体験することができた2週間でした。次行く機会があるなら次こそはコアラを抱っこしたいです！(武田 花)



3/11

3/12・13・14

3/15～3/21

3/22

3/23

3/24

学校を15:30出発→(機内泊)→14:10アデレード着

ホストファミリー、市内観光

市内3校に分かれてグループ研修

アデレード大学訪問

オーストラリア研修実践報告会

帰国



School Life



Golden Grove 『充実した学校生活』

オーストラリアでお世話になったGolden Grove High School (G.G.H.S.) での1枚です。G.G.H.S.には、アボリジナル(オーストラリア先住民)の先生がいて、アボリジナルの文化をたくさん教えてくださいました。この写真の背景にある壁にはアボリジナル・アートが描かれています。そして、みんながやっているポーズはアボリジナルの先生が、「カンガルーのポーズ!」と、教えてくれたものです。オーストラリアやアボリジナルの文化がたくさん知れて、充実した学校生活を過ごせました。(三矢玲奈)

Para Hills HS

パラヒルズハイスクールで自分が一番思い出に残ったことはそこで出会った男子たちとの時間でした。彼らは自分たちを校庭や体育館に連れていき、サッカー、テニス、フットボール、フリスビーなどを自分たちと一緒に楽しんでいました。彼らは見ず知らずの自分たちを「一緒にやろう!」といって明るく招き入れてくれました。自分は一見知りなので彼らのようになりたいと思いました。また、彼らに会いたいです。(土屋諒祐)



Salisbury East HS

私は、Salisbury east high schoolで過ごしました。登校日3日目には“スポーツデー”と呼ばれるクラスマッチのようなものがありました。オーストラリアでは競技には自由参加というスタイルで日本のように決められた競技に出るという習慣はありませんでした。写真はロッククライミングに挑戦した写真です。(村松香音)



【メンタル強化】 遠藤智津子

初対面の人とのコミュニケーションを大の苦手とする娘が見知らぬ家庭に半月もお世話になる事に双方不安しか無かったのですが、有無の言えない状況に置かれると自分の意思や希望をきちんと伝える事で大分メンタルが強化された様です。この先外国人と接する機会があっても尻込みする事はもう無いと頼もしい言葉を聞く事ができ、親が思っているよりもずっと子供が成長しているのを実感できるオーストラリア留学でした。

【パワーアップ】 有坂里佳

大きい家、伸び伸びと、小さい事は気にしない、良い意味で大雑把。3姉妹のホストファミリーと過ごした2週間は日本のことなどすっかり忘れ、帰りたくない程。日本から来た黒髪のお姉さんは面倒見がよく、妹達からも慕われ、楽しい日々。帰国後は物おじしない性格も益々パワーアップ。沢山の刺激を受け、目標に向かって勉強しないと叶わないと意欲増大。そして、小さい子のお世話が得意、という新たな一面がみえました。



保護者の見た研修旅行



【かわいい子には旅を】 平出 恵

待ちに待った出発日…楽しみいっぱい不安もいっぱい旅立ちました。あちこちでテロ事件が起こり始めた時期だったのでとても心配しながら送り出しました。あっという間の2週間、身も心も一回り大きくなって帰ってきました。家族への対応が以前より柔らかくなった気がします。これからいろいろな人への感謝の気持ちを忘れずにいてほしいと思います。



活躍する縣陵生

山岳部

男子、浅原大我君(2G)、小原充貴君(2A)、加瀬裕亮君(2E)、大月翔太君(2D)、女子、小澤紬さん(3D)、中山史織さん(3G)、小西柚貴子さん(2C)、齊藤みづきさん(2D)。県大会優勝、7月30日から8月3日まで、山形県蔵王山系・月山で開催される南東北総体2017に出場します。



陸上部

森本知隼さん(3B)走幅跳び・県大会優勝、三段跳び・県大会優勝、100m・3位、町田みささん(3H)ハンマー投げ・3位、塩原美里さん(2F)走高跳び・優勝、三段跳び4位となり、6月15日から18日まで、富山県総合運動公園陸上競技場において開催された北信越大会に出場しました。



インターナショナル部

5月27・28日、菅平スイスホテルで開催された第21回EnglishCampでプレゼンテーションの部で、瀬古啓輔君(2H)、遠藤まどかさん(2H)、小祝あおはさん(2D)が未来の翻訳機について発表、優勝しました。



卓球部

女子ダブルス^{くるみなほ}胡桃奈歩さん(3I)、山田奈々さん(2A)県大会6位、女子シングルス胡桃奈歩さん(3I)9位、山田奈々さん(2A)10位となり、6月16日から18日まで、新潟県亀田総合体育館で開催された北信越大会に出場しました。



男子バレー部

宮川郁真君(3I)、連川麟太郎君(3H)、恩田瑛司君(2C)、宮崎優希君(3G)、倉田昌君(3B)、伊藤悠悟君(1A)、林亮太君(3B)、新井幸也君(2D)、百瀬達也君(3A)、田中知暉君(2D)、宮坂充彦君(2D)、小河原洸也君(2F)、内山青空君(2A)、原幸輝君(3B)

県大会3位となり、6月16日から18日まで、南砺市福野体育館で開催された北信越大会に29年ぶりに出場しました。



棋道部

平出純也君(3F)囲碁選手権県大会で準優勝、斎藤慶太郎君(2C)将棋選手権大会A級準優勝し、両名は7月21日から宮城県白石市で開催される第41回全国高等学校総合文化祭に、平出君はさらに東京・日本棋院で開催される第41回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権全国大会に出場します。



水泳部

男子:河野玄翔君(3H)、女子:柴田恵さん(3B)、由沢杏純さん(3G)、宮本春香さん(2D)、平林伶菜さん(1H)の計5名が、7月21日(金)～23日(日)、富山県高岡総合プールで開催される北信越大会に出場します。



吹奏楽部



定期演奏会

6月11日に行われた第34回定期演奏会には430人を越えるお客様にご来場して頂きました。お客様に届けたいという部員の思いが少しでも伝わったでしょうか。支えて下さる方々あっての吹奏楽部だと実感しました。本当にありがとうございました。

(部長 今溝 莉子(3E))

松本県ヶ丘高等学校は、「自然探究科」と「国際探究科」を設置します

信州・日本・世界の第一線で活躍する人材の育成

～高い志と豊かな教養を備え、地域に根ざしてグローバルに活躍する～



フィールドワーク



研究の成果を発表



ゼミ形式の探究活動

育てたい生徒像

高い志と専門性

知的好奇心に富み、未知の分野を切り拓く強い意志と専門性を持った生徒

課題解決力

自ら発見した課題について、主体的・協働的に取り組み、その成果を広く発信できる生徒

グローバルな視野とコミュニケーション能力

高度な英語力と異文化理解能力があり、他者と協力して問題解決に取り組める生徒

2・3年

自然探究科

自然科学分野の様々な事象を主体的・協働的に探究し、思考力、判断力及び表現力を育成

学校設定科目

「探究実践」

ゼミ形式で 個人・グループで
スパイラルに

- ◆ 課題を設定
- ◆ 実験・観察・フィールドワーク
- ◆ 考察・発見・まとめ・発表
- ◆ 新たな課題の発見

国際探究科

人文・社会科学分野の様々な事象を主体的・協働的に探究し、思考力、判断力及び表現力を育成

学校外との連携

- ◆ 信州大学
- ◆ 松本市など地元自治体
- ◆ 地元企業

海外研修

- ◆ オーストラリア研修旅行
- ◆ 現地でのフィールドワーク
- ◆ 現地高校生との交流

ICT機器の活用

- ◆ 各教室に電子黒板
- ◆ タブレット端末を活用

英語コミュニケーション能力の育成

- ◆ スピーチ
- ◆ ディベート
- ◆ プレゼンテーション

1年



タブレット端末を活用

興味・関心、適性及び希望に基づいて学科を決定

学校設定科目

「探究基礎」

- ◆ 信州学により、地域の歴史・文化・自然を科学的にとらえる
- ◆ 課題設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・発表の基本を身につける



英語ディベート

学校外との連携

- ◆ 信州大学
- ◆ 松本市、塩尻市等
- ◆ 地元NPO団体
- ◆ 県立長野図書館等

教科「情報」

- 情報リテラシーの習得
- ◆ 情報スキル
- ◆ 情報モラル
- ◆ プレゼンテーション能力

ようこそ県陵へ！

ようこそ



組

君たちひとりひとりがAです！
エース

ひとりひとりがA組のメンバーとして県ヶ丘のメンバーとして活躍してくれることを期待しています。(担任 本山 修)

何事も全力で！

一度だけの高校生活、クラブ、勉強…何事も全力で取り組もう！
(担任 藤岡 善弘)



組



組

NEVER SAY “DIE”!

学び、考え、行動し、喜び、悲しみ、怒り、悩む。いいことも悪いことも何でもあり、なのが人生。でも君だけの人生。

(担任 細田 明彦)

希望と共に、一步一步。

目の前の課題や時間に全力で挑もう。目の前にいる人を大切にしよう。その小さな一步一步をつみかさねて、3年後の大きな一歩につなげてほしい。

(担任 藤原 未幸)



組



県陵へ！



明るく、元気に。

部活をはじめ、何事にも一生懸命。
(担任 橋本 智)



本立而道生

基礎がしっかりして初めて道がうまれる
のだよ。そして基礎は日々の堅実な歩
みを通して培われるものなのか。
(担任 草間 俊文)



Try Everything!

なんでもやってみよう!元気よく!
明るく、楽しく、元気よく!
(担任 石坂 珠緒)



賢く、品良く、根性のあるクラス

クラス全員がこのクラスで良かった!と思って
卒業できるよう皆で努力していきます。
(担任 赤羽 紗也子)



～縣陵祭スナップ～



縣陵祭 表彰

ポスターデザイン 長瀬桜乃さん (1D)
 パンフレットデザイン 小日向郁香さん (3H)
 文化部賞 ダンス部
 生徒会企画賞 1年G組、2年G組、3年B組
 校内装飾 最優秀クラス1年G組
 ダンス 最優秀クラス3年F組、3年A組
 クラス発表 最優秀クラス 2年C組、3年A組
 最優秀垂れ幕 弓道部



編集雑記

- 委員長なのに遅刻してしまってすみません…。しかし、懲りずに次回もおやつ選びに命を懸けます!! (3H 河野)
- 広報委員になって農作業の合間に学校で楽しいひとときが出来て良かったです。(3H 高畑)
- 高3での役員。かなり心配でしたが、娘との貴重な思い出になりそうです。広報委員やれて良かった! (3G 松本)
- ただでさえ文章を作るのが苦手な私に先生から寄稿依頼のメールがくると思わず既読無視をしたくなる今日この頃…先生ごめんなさい。(3I 平出)

- 中学で役員はもう終わった、と思っていたのにくじ運が良すぎです。1年間、本当にラストかもしれないので、楽しんでやりたいと思います。(2A 藤森)
- 先日、子どものパスポートを取りに行った。自分の頃は修学旅行がなかったもので、楽しんで来て欲しい。(2B 太田)
- 広報委員になり、普段はあまり足を運ばない学校に来ることができて良かったです。おいしいケーキも食べられ思ったより活動を楽しむことができました。(2H 米林)
- 「携わりたい」そう思わせてくれる学校です。3年間は砂時計のように過ぎるかもしれません。充実した瞬間(とき)を送りたいです。(1D 伊藤)

- くじ運悪かったな〜と大後悔でしたが、やってみたら意外と楽しいPTAですね。(1E 嶋崎)
- まさか、高校でもPTA役員になるとは思っていませんでした。びっくりです!!ねっ草間先生(笑)(1F 大概)
- このPTA会報は皆様の思いを繋いでいる貴重なものだ実感しました。(1F 村田)
- 縣陵祭で縣陵生のパワーを感じました。楽しい高校生活を!(副会長窪田)
- 今回の「目玉」は「ようこそ県陵へ!」金森写真館さんの協力ですてきな笑顔をお伝えできました。(広報担当池上)



松本県ヶ丘高等学校PTA会報 縣陵 132号

発行日●2017年7月21日 発行●松本県ヶ丘高校PTA 編集●広報委員会 印刷●川越印刷株式会社
 写真提供●有限会社金森写真館 <http://www.nagano-c.ed.jp/agata>

